

第2回 富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会 議事概要

日時：令和6年5月9日（木）16：00～17：00

場所：富山県民会館 4階 401会議室

出席者（五十音順）：齋藤学長、品川副会頭、難波教授、
新田知事、藤井市長、牧田代表幹事

- ・ 県外から富山へ来ている学生は、冬は行く場所が非常に少ないと悩んでいるため、札幌のように地下街を開放して、いろんなイベントが行われていると冬の楽しみ方の幅が広がる。
- ・ 富山での冬は、魚が美味しいので、例えば、寿司が美味しい寒いときにイベントをすることで、全国から観光客が来ていただけるのではないかと。
- ・ 外出が少なくなると経済活動性が無くなる。冬場も若い人たちや観光客に、ふさわしいイベント会場、もしくはイベント会場でできるようなものを作っていたら、富山駅からずっと歩いて来られるように造っていただけたらありがたい。
- ・ 富山に来られた方、富山県民の皆さんに足を運んでもらい、記念撮影をするようなシンボリックな場所になってほしい。
- ・ 駅から歩いていけるウォーカブルな場所、あるいは公共交通を短区間乗っていける場所がこの地区にあればいい。
- ・ 子どもや家族連れが、歩いて行ける複合型の体験施設や富山がどんな場所かわかるような展示物がある場所があれば良い。
- ・ 雨の日でも雪の日でも時間を過ごせるような場所がこのエリアにほしい。
- ・ まちづくりの観点から、新しく作っていくもの、残していくもの、暫定的に柔軟に使う場所というような、明確なゾーニングがまず必要ではないかと。
- ・ 県有地は、県民の共有財産であるので、ここは自分たちの場所なのだと思いますようにしていき、閉ざされた空間をより切り開いていくことが必要。
- ・ 暫定利用期間に県民の方々に開かれた場所として情報発信し、分かりやすく使える、使いたいと思ったときに使いやすい場所として、主体的に関わっていきたい人を育てていけるような場にしてほしい。
- ・ 既存の県庁の建物自体が建築的に魅力ある場所なので、この建物を上手く使うことで魅力が伝わるのではないかと。
- ・ （委員のアイデアにあった）博物館であるとか、市役所と直接県民会館や県庁を結ぶとか、これぐらいの発想も大事だと思う。
- ・ 駅の南北自由通路が全天候型の広場になっていて、日中でも夜でも冬でも、いろんなイベントが可能になっている。悪天候の多い富山の冬を、県外から

の学生にもどう楽しく過ごしてもらえるかということについて、現在あるものをどう使っていくか、あるいは新たにどのようなハードを整備すればいいのかということも含め色々と具体的に議論していけば良い。

- 若者がイベントに参加して主体的に取り組むことにより、自然といろんな方々が集まってくるのではないか。そのような賑わいのある場所は、観光的に見ても県外の方々も興味を持ち、いろんなことに参加していただけると思う。
- 学生が楽しめるようなイベントや、そこで学ぶような場所があってもいいし、多くの学生が毎日そこに居るといようなことも、まちの元気に繋がっていくのではないか。
- 駅北から駅を通過して、そして総曲輪に至る流れの中で、県庁の土地・建物、県庁前公園、NHK跡地、県民会館といった県有地を、これからどのように使っていけばいいのか、変えていけばいいのか、磨いていけばいいのか、富山市と一緒に考えながら、県の責任を果たしていきたい。
- 歴史的建造物の県庁の建物をただ解体するにはもったいないと思っており、別の用途に使うということも大いにありだと思ふ。
- 若者がSNSで情報発信することで、人が集まり盛り上がることから、学生がいろんなイベントを企画して、参加させていただけるような場を提供していただきたい。
- NHK跡地の暫定利用期間にイベントスペースとして使えるようにし、いろんなイベントを企画する人たちのアイデアを募れば、人が集まって化学反応が起こり、さらなるアイデアが膨らむのではないか。
- 城址公園で開催された全国ラーメン博を youtuber が SNS で発信したら、すごい人が集まったという実績があることから、新しい時代のイベントを暫定利用期間に行ってほしい。
- 県立美術館や環水公園からスタートして、スケートボード場やバスケのコートがあり、南北通路を通過して県庁前、桜木町、中央通りと、路面電車沿線が一連で繋がり、県の顔となるエリアになったことから、クリエイティブな人たちのアイデアも展開しながら、緑もウォーターフロントも城も活かしながら、形にしていければよい。
- 暫定利用時に公園とか外ばかりに目を向けずに、既存の建物の中であまり使っていないスペースについても内部空間として積極的に使っていけたら良い。
- 冬にも使えるイベント用の仮設構造物や災害時の備蓄庫、仮設住宅、避難場所としても利用可能なものがあると良い。
- 若者のチャレンジショップや個展のようなものに使えば、それをきっかけに人との繋がりができ、富山県内で起業しようと思う人も出てきて、ビジネスに繋がっていくのではないか。

- いろんな方に実際に使ってもらいながら、これという決め打ちをせずに、クリエイティブな人たちや若者に参加していただくような取り組みやイベントの中で、アイデアをいただくことが良い。
- NHK跡地を含む県庁周辺エリアについて、まちのため、県のため、インバウンドを取り込むためにアイデアを大いに募っていきたい。
- 土壌調査に少し時間がかかるが、本年度下期から、数年間の暫定利用が可能になるので、ある程度腰を落ち着けて活用いただくアイデアもいただきたい。
- （委員がおっしゃった）起業の前段階としての活用なども視野に入れて、富山市とも連携し、緊密にコミュニケーション取りながらしっかりやっていきたい。
- ある地域の開発を考える際に、あらかじめエリアコンセプトの方向性を定め、事業者側に地域の将来の考え方を示し、これに沿って事業者提案を選定するという手法をとる例が近年出てきている。
- 県庁周辺エリアのエリアマネジメントにとって、どのようなデザインが相応しいかを考えることは、県民にとってもわかりやすく、改善のイメージを持ちやすい。
- 県庁前公園の今後のあり方に関して、エリアコンセプトプランを立てたうえで、具体的なデザインを提案してもらおうアイデアコンペを開催するのも一案。
- エリアのコンセプトを固める方向で進めていくことが最適な道ではないかと思う。
- 若者たちと共に行ったワークショップで出た意見やアイデアでは、「意味のある余白」とか、「まちの庭」というものがあつた。今日は、委員の皆様から、オープンスペースであることそのものを活かすとか、イベントで賑わうようにするなどのお話をいただいたところであり、皆さんのお考えと、若者たちが持っているイメージは結構リンクをしているのではないかと思った。